

「元気な新聞」創刊

被災地の子供と共同製作

桐生境野小

桐生境野小(服部尚文校長)と東日本大震災で被災した岩手県野田村の子供たちが協力して製作したことも新聞が完成、7月上旬に市民団体を通じて現地の子供や避難所に配布される。被災地を思いやる境野小の児童の気持ち、現地の子供が取材した復興の灯が紙面に盛り込まれ、被災者を勇気づける内容に仕上がった。境野小は新聞交流が被災地の励みになればと、製作を続けていく考えだ。

現地で配布へ



被災地の子供たちと協力して新聞を作った桐生境野小新聞委員会

がんばろう
日本 群馬発

完成した新聞は、境野小の学校新聞「大いちょう」の題字を使ったB4判4ページ。新聞委員会(茂木紅薫委員長)の18人が、担当教諭を通じて聞いたボラunteイアらの話を基に記事を書いたり、現地の小中学生が取材して送ってきた記事や写真、絵を編集して製作した。

野田村は津波の被害が大きかったが、紙面では復興のシンボルとなる人気の洋菓子店の再開や、「負けないうよ!元気パワー」の見出しとともに復興を願う現地の子供の声を、被災地へのエールを掲載している。

今後交流が続くようにと、境野小や桐生市を介して、現地の子供に新聞作りのノウハウがないため、新聞製作を紹介するページも設けている。

人と人をつなぐ活動で被災地を支援している市民団体「チームともだち」(登内義也代表)が、被災地の子ども新聞作りを提案。野田村を訪れた際に子供に

声を掛けたところ、小学生を中心に約15人が集まり、取材が始まった。実際の新聞製作については、活発に取り組んでいる同校に相談。新聞委員会の全員で取材や編集作業をして17日に完成させた。

現地ではチームともだちを通して印刷した650部が配布される。同校は新聞製作の資料や道具、原稿用紙を贈って、現地での新聞作りに役立ててもらおう。

6年生の茂木委員長は「つらいことがあったと思うので、野田村の子供たちにも読んでもらって、少しでも笑顔を取り戻してほしい」と話している。

チームともだちは、被災地の子供と新聞作りをする学校や団体を広く募集していく予定だ。